

## 第 5 回 SC 委員長会議報告

日 時： 2003 年 7 月 11 日（金）13:00～17:00

場 所： 自動車会館ビル 1 階会議室

出席者：伊藤委員長（A1）天野委員長（A2）伊藤幹事補佐（A3）佐久間委員長（B1）  
深海委員長（B2）後藤委員長（B3）林委員長（B4）竹内委員長（B5）  
八木委員長（C1）杉原委員長（C2）北村委員長（C3）石井委員長（C4）  
内藤委員長（C5）小田切委員長（C6）長尾委員長（D1）福島主査（D2）  
川村委員長 市田副委員長 関根顧問 加藤幹事 松浦幹事 福井幹事  
中澤幹事 小海幹事 上田幹事補佐 塩沢 兼近 堤幹事補佐（記）

議事内容： 司会 加藤幹事

(1) 開会挨拶（川村委員長）

(2) JNC50 周年記念行事について（松浦幹事）

- ・松浦幹事より、準備会メンバー、各記念行事と概要、役割分担とスケジュールについて説明した。
- ・「日本 CIGRE 国内委員会 各 SC 国内分科会の国内外への貢献事項調査表」の記入例の扱いについてご質問があり、あくまでもご参考として戴くことを説明した。
- ・古い資料は 1970 年代までしかなく、1950 年代、1960 年代の資料がないため表を埋めることが難しいが、どれくらいの確度が必要かとのご質問があった。それに対し、電協研の資料に古いデータがあるので参考にすれば良いとのコメントがあった。
- ・「各 SC の過去の主なトピックス」の執筆ボリュームは A4 サイズ 2～3 ページ程度かとのご質問があり、全体のボリュームを見て決定することを説明した。
- ・執筆者の事前連絡が必要かとのご質問があり、今のところ予定してないことを説明した。
- ・「JNC50 周年記念パーティ御案内者」について、連絡先の確認と推薦のお願いをした。

(3) AORC 活動報告（小海幹事）

- ・2004 年 3 月 23 日～25 日にマレーシアで AORC Technical Meeting を開催予定であり、アブストラクトの受付け締め切りが 9/15 に延期されたことを説明した。
- ・Call for Papers はどのように案内されているかとのご質問があり、ローカルにマレーシアの委員長から送られてきているため、小海幹事より各 SC 委員長宛てへ電子データを送付することとした。
- ・応募は各 SC 委員長の判断とするが、応募された論文については事務局へ連絡を戴くこととした。

(4) SC 会議日本開催計画（松浦幹事）

- ・SC B3 の 2005 年の開催は決定ではなく、ほぼ決定ということなので、◎→○へ訂正する。

- ・ SC D1 の 2003 年の WG15 は中止となったため、削除する。
- ・ SC C1 の実績（2003 年、WG31）を追記する。
- ・ SC 41 の実績を追記する。

(5) 各 SC からの報告と質疑（各国内 SC 委員長）

資料に基づき報告があった。主な質疑応答は下記。

SC A1：伊藤委員長（東芝） 特になし。

SC A2：天野委員長（日本 AE パワーシステムズ） SC 会議の開催場所は 2005 年まで決定している。日本開催については 2007 年以降になるとの説明があったが、市田副委員長より、本部 SC 委員長と直談判して日本へ持ってくるようにしてもらいたいとのご要望があった。

SC A3：伊藤幹事補佐（三菱電機）（吉積委員長欠席のため代理出席） WGA3.12「遮断器の制御」の次回会議は日本開催の要望が出ているので宜しくお願したいとの説明があった。2005 年の日本開催 SC 会議は B3 と連携を取って、合同開催を行う方向で調整することとする。

SC B1：佐久間委員長（ビスキャス） 川村委員長より、AORCB1 ワークショップには参加者が多かったが、その理由は何かのご質問があり、AORC メンバーだけでなく AORC 非会員国の CIGRE メンバーにも声を掛けたことの説明があった。今後、AORC ワークショップの案内は CIGRE メンバーにも声を掛けることとする。

2007 年 SC 会議の日本開催を目指すとの説明があった。

SC B2：深海委員長（東北電力） 市田副委員長より、WG メンバーについてアクティブに活動できる方に交代してもらったらどうかのご意見があった。SC 会議の日本開催については正式には申し出ていないが、順番で行くと 2015 年頃になるとの説明があった。

SC B3：後藤委員長（東京電力） 本部 SC 委員長より、2005 年に A3 と合同にて日本で SC 会議を開催できないかとの打診があったとのことであり、A3 委員長と協力して進めることの説明があった。加藤幹事より、予算的には 2 件／年の開催は問題がないことを説明した。合同開催の場合 JNC パーティは一緒にやった方がよいことを説明した。

SC B4：林委員長（電力中央研究所） SC 会議は 2005 年がインドであり、2007 年に日本開催を表明する予定。加藤幹事より、アジアでの連続開催となるが問題ないかとの質問があり、問題ないと考えるが、本部 SC 委員長へ確認することとなった。

SC B5：竹内委員長（中部電力） 市田副委員長より、国内分科会の作業は若手にやらせるのではなく、本人が実施するようにして欲しいとのご意見があったことに対し、現在ではちゃんと本人が実施していることの説明があった。

活動報告の中で、シドニー大会の大会という表現は適切ではないので、コロキウムやチュートリアル（あるいは SC 会議）という表現に訂正する。

2002 年パリ大会で口頭発表を 12 件行ったことに対し、了解はどのようにして取ったのかのご質問があり、事前に本部 SC 委員長へ申し出し了解を取ったことの説明が

あった。川村委員長より、良いことなので継続して実施して欲しいとのコメントがあった。

SC 会議は 2003 年がオーストラリア、2005 年がカナダの予定であり、日本で開催するのであれば 2007 年以降となる。但し、順番を考慮すると 2013 年が現実的かとの説明があった。

SC C1：八木委員長（関西電力） SC 会議は 2007 年がアジアの予定であり、日本開催を申し出る予定だが、中国との争いになるのではないかと説明があった。

今年度の C1 定例会議は 2003 年中国シンポジウムに合わせて 4 月に上海で開催される予定であったが、SARS の影響により出席者が数名であったため、再度開催を計画することの説明があった。

AORC テーマ候補のテーマ 1：「系統連系における運用の経験；周波数調整、電圧管理方法」について、市田副委員長より、日本の周波数調整は難しく、日本特有の問題があり、数値的にはヨーロッパより 1 桁悪いため、紹介時には気を付けるようコメントがあった。

SC C2：杉原委員長（中国電力） 委員長より、2002 年 11 月開催の CEPSI で紹介された ASEAN 諸国の 2020 年までの広域電力系統連系のマスタープランについて、AORC で検討することを提案して欲しいとのご要望があった。

SC C3：北村委員長（関西電力） SC 会議は 2003 年がアルゼンチンの予定であったがスペインに変更となった。2005 年に日本開催を申し出予定。加藤幹事より、SC 会議の実施要領については、実施報告書があるので参考にすれば良いとの説明があった。

関根顧問より、Environmental についてどこまで含めるかという議論をやったのかというご質問があり、やっていないのであれば WEC との縄張りの問題もあることから、今度のスペインでの国際会議で良く議論して欲しいとのご要望があった。

SC C4：石井委員長（東京大学） 市田副委員長より、大変だとは思いますが、日本でイニシアチブを取れるように、また、石井委員長が本部 SC 委員長になれるようにリードして欲しいとのご要望があった。

SC 会議は 2007 年日本開催を申し出る予定であるとの説明があった。

SC C5：内藤委員長（東京電力） 川村委員長より、国内分科会メンバーで電力関係者以外は三菱総研の方だけであり、海外メンバーの構成はどうかとご質問があり、それに対し国の規制関係者、コンサル他であるとの説明があった。国内分科会メンバーも海外メンバーを見て考える必要があるとのコメントがあった。

発足間もない SC であることから、SC 会議の日本開催については未定であるとの説明があった。

SC C6：小田切委員長（東京電力） SC 会議は 2003 年カナダ、2005 年は未定であるが、2007 年に日本開催を申し出る予定との説明があった。

SC D1：長尾委員長（豊橋技術科学大学） 特になし。

SC D2：福島主査（中部電力）（河津委員長欠席のため代理出席） 特になし。

(6) 理事会への執行委員会からの報告（市田副委員長）

- ・電子メール・コミュニケーション 秘密投票や生々しい議論には使用しないということの申し合わせを行った。
- ・財政 2002 年の残高は約 57 万ユーロであり、2 年連結の収支で黒字。2004 年の会費、会議登録料は現状維持が可能な状況であるが、2006 年は会費の値上げが必要であると思われる。
- ・地域 イベリアーアメリカ地域のグループの新設について、市田副委員長、アメリカ、欧州の各代表の 3 名にて調整し理事会へ提案する。
- ・理事会の構成 メンバー減少のハンガリーを落とし、メンバー増加の韓国を加えることを提案する。
- ・技術論文の配布ー著作権 書類や小冊子のコピーや電子データで配布することについて、団体会員を増やしたいので、団体会員会社内での配布は可能にした方が良いのではないかとの提案があった。

(7) ELECTRA 編集委員会報告（福井幹事）

- ・日本からの設備投稿写真があれば、福井幹事まで送付して欲しい。ELECTRA は 4000～5000 部発行されるので良い PR になると考えるとの説明があった。

(8) パリ大会論文等の選考方法の改善案について（加藤幹事）

- ・2001 年 7 月 6 日の SC 委員長会議にて説明した資料に基づき、再徹底のお願いをした。

(9) 2004 年第 40 回パリ本部大会開催について（福井幹事）

- ・会期は 2004 年 8 月 29 日（日）～9 月 3 日（金）の予定。現時点では、本部からの正式な案内はきていないことを説明した。
- ・展示ブースの出展申込手続きについて、2002 年の例を参考に説明した。
- ・論文採択結果について、本部 SC 委員長から直接執筆者へ送付される場合もあるため、その場合は JNC へ連絡戴くことをお願いした。（今回は直接執筆者へ送付されたケースがあった）

(10) 国内 SC 委員長交代について（小海幹事）

- ・今回は A1, A2, A3, D2 の 4 名の交代が予定されており、人選にあたっての条件を説明した。

(11) 若手技術者に対するパリ大会、シンポジウム、個人会員登録料の補助について（加藤幹事）

- ・CIGRE 本部より 2003 年より若手技術者に対して補助を行うお知らせがあり、内容を紹介した。

(12) JNC 監事について（加藤幹事）

- ・森本監事（関西電力）の就任が承認されたことを報告した。

(13) 閉会挨拶（市田副委員長）

以 上